

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事例概要について】

| | |
|-----------------|---|
| 1. 事故・ヒヤリハットの別 | ヒヤリ |
| 2. 体験した事例の名称 | 救急車のスライドドアに指を挟まれそうになった事例 |
| 3. 体験した事例の中心的要素 | 室内から傷病者を搬送する際に当事者Aと当事者Bがお互いの靴を誤って履いたため、車内収容後、当事者Aはスライドドアを開けたまま救急車のBピラーに手をかけ靴を履き替えていたが、急な下り坂に救急車を部署していたためスライドドアが閉まり始め、Bピラーとスライドドアの間に指を挟まれそうになった。 |
| 4. 体験した事例の原因・理由 | 救急車を急な下り坂に部署した。当事者Aが靴の履き替えに集中していた。スライドドアは動かないと思いこんでいた。 |

【体験した事例の直接的原因について】

| | |
|------------------|-----------------|
| 1. 体験した事例の直接的な原因 | 行動の意志決定に問題があった。 |
|------------------|-----------------|

【体験した事例について】

| | |
|----------------------------------|-----------------------|
| 1. 発生日時 | 平成 20 年 9 月 日 午前 5 時頃 |
| 2. 発生した当時の天候 | 晴 |
| 3. 発生した活動現場 | 屋外：救急車の脇 |
| 4. 体験した事例の種類 | 回答者が、自分自身で負傷した。 |
| 5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度） | 軽傷の怪我をしていた（させていた）だろう。 |
| 6. どのようなことが起きたのか (起きそうになったのか) | |
| 7. 事例体験時の活動 | 救急現場活動初期、 [] |
| 8. (7の活動中) どのような作業中に発生したか | その他：車内収容直後 |
| 9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。 | 初めて体験した。 |

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

| | |
|------------------------|--|
| ○当事者 A | 年齢[29]歳、 勤続年数[3]年、 現場経験年数[1]年、 階級[消防士]、 同様の活動 [頻繁]、 任務 [その他 : 警防隊員] |
| ○当事者 B | 年齢[32]歳、 勤続年数[15]年、 現場経験年数[15]年、 階級[消防士長]、 同様の活動 [頻繁]、 任務 [隊員] |
| ○当事者 C | 年齢[]歳、 勤続年数[]年、 現場経験年数[]年、 階級[]、 同様の活動 []、 任務 [] |
| その他 (当事者が 4 人以上の場合) | |

11. 事例発生の経過。

| | 誰(何)が | なにをした | その他・備考など |
|-------|--------|------------------------------------|----------|
| 経過 1 | 当事者A | 当事者Bの靴を誤って履いた | |
| 経過 2 | 当事者A | スライドドアを開けたまま救急車のBピラーに手をかけ靴を履き替えていた | |
| 経過 3 | スライドドア | 急な下り坂に救急車を部署していたため閉まり始めた | |
| 経過 4 | 当事者A | 救急車のBピラーとスライドドアの間に指を挟まれそうになった | |
| 経過 5 | | | |
| 経過 6 | | | |
| 経過 7 | | | |
| 経過 8 | | | |
| 経過 9 | | | |
| 経過 10 | | | |

【その事例発生時の状況について】

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか?

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

たまたま、負傷事故にならなかつた。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

- ・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。
 - ・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。
 - ・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。

b. 注意力が欠如していた

- ・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。
 - ・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。
 - ・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。

c. 経験・知識が不足していた。

| | |
|----------------------------|-----|
| ・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。 | いいえ |
| ・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。 | はい |
| ・活動に対する経験が不足していた。 | はい |

d. 心身の不調があった

| | |
|-----------|----|
| ・体調が悪かった。 | はい |
| ・悩み事があった。 | はい |

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

| | |
|---------------------|-----|
| ・装備・資機材自体に問題があった。 | いいえ |
| ・装備・資機材の使用方法が誤っていた。 | いいえ |
| ・装備・資機材の対処能力を超えていた。 | いいえ |
| ・必要とする装備・資機材がなかった。 | いいえ |

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

| | |
|---------------------------------|-----|
| ・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。 | いいえ |
| ・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。 | いいえ |

g. 行動しにくい環境だった。

| | |
|------------------|-----|
| ・狭隘な場所であった。 | いいえ |
| ・暑かった（寒かった）。 | いいえ |
| ・野次馬が多かった。 | いいえ |
| ・現場周辺の地理に不案内だった。 | いいえ |

h. 足場が悪かった。

| | |
|-------------------|-----|
| ・足元が躊躇したり滑りやすかった。 | いいえ |
| ・足元の強度が不足していた。 | いいえ |

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかつた（適切な指示を与えられなかつた）。

| | |
|-------------------------------------|-----|
| ・活動指示が得られなかつた。（無線が通じない等。） | いいえ |
| ・指示内容に誤り・偏りがあつた。 | いいえ |
| ・指示内容が実施困難であつた。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。） | いいえ |

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

| | |
|----------------|-----|
| ・隊員の連携が不十分だった。 | はい |
| ・隊員が不足していた。 | いいえ |

○その他

l. その他の理由があつた。

| |
|--------------------|
| はい：救急車を急な下り坂に部署した。 |
|--------------------|

救急車左側

